



平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月15日

上場取引所 東名

上場会社名 CDS株式会社

コード番号 2169 URL <http://www.cds-japan.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芝崎 晶紀

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理・財務部長 (氏名) 中嶋 國雄

TEL 052-587-5410

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	2,252	25.8	301	121.7	300	126.2	170	—
25年12月期第1四半期	1,790	△12.1	136	△58.2	132	△59.0	△98	—

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 171百万円 (—%) 25年12月期第1四半期 △90百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	25.03	—
25年12月期第1四半期	△15.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第1四半期	5,950	3,868	65.0	567.12
25年12月期	5,643	3,832	67.9	561.94

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 3,868百万円 25年12月期 3,832百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	16.00	—	20.00	36.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	18.00	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成25年12月期1株当たり配当金20円の内訳は、普通配当16円、記念配当4円であります。

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,408	15.3	513	23.3	503	22.4	264	270.3	38.77
通期	9,237	11.0	1,153	10.5	1,139	9.3	611	37.6	89.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期1Q	6,924,400 株	25年12月期	6,924,400 株
② 期末自己株式数	26年12月期1Q	104,000 株	25年12月期	104,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期1Q	6,820,400 株	25年12月期1Q	6,478,114 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安基調を背景に企業収益の改善が見られたほか、消費税率の引き上げを控えた駆け込み需要から消費が上向くなど、景気動向については堅調に推移いたしました。その一方で、今後予想される駆け込み需要の反動減、ウクライナ情勢の緊迫化の影響、中国経済の減速などの懸念材料もあり、先行きの見通しは依然として不透明な状況にあります。

当社グループは、情報家電産業、産業設備・工作機械産業、自動車産業、医療機器産業などに代表される「ものづくり企業」へのサービスに特化し、ドキュメンテーション事業、エンジニアリング事業、技術システム開発事業を展開してまいりました。とりわけ近年においては、グループ各社の多種多様な特長と強みを活かすことで、グループ内シナジーを創出し、IT技術を駆使して「ものづくり」に関わる顧客企業の製品開発から製造・販売・サービスまでのビジネスプロセスの各段階をバックアップできる「技術情報統合マネジメント企業」として、顧客価値の向上に寄与いたしております。

また、高度化・多様化する顧客ニーズに対し、常に最新鋭の情報技術力を駆使するとともに、当社独自の創造性と技術力に富んだ提案をすることで、「ものづくり企業」へのサポート体制を強化しております。今後も、“提案力の強化”“高付加価値技術による他社との差別化・競争力強化”に注力し、“既存顧客の囲い込み”“新規顧客の開拓”を進めるほか、ロボットビジネスの確立をはじめとする“新規事業・新規領域の拡大”“M&Aによる規模の拡大”を図ってまいります。

業容拡大に向けた取り組みとしては、平成25年7月にフランス共和国を拠点とするSAS METAFORM LANGUESの全発行済株式を取得し、グループ経営力のさらなる強化を図りました。METAFORM LANGUES社は、フランス各地において工業、医療、食品など様々な分野の企業の語学研修・通訳・翻訳を展開しております。同社が持つ国際的なネットワークと当社グループのコア事業であるドキュメンテーション事業のノウハウを共有することにより、グローバル展開を図る顧客に対して幅広いサービスを提供することが可能となります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、連結売上高2,252百万円（前年同期比25.8%増）、営業利益301百万円（前年同期比121.7%増）、経常利益300百万円（前年同期比126.2%増）、四半期純利益170百万円（前年同期は四半期純損失98百万円）の増収増益となりました。

なお、当社グループでは、株式会社バイナスが手掛けるFA・ロボットシステムを中・長期的な戦略ビジネスとして位置づけ、新たな工場の開設を進めてまいりましたが、平成26年4月に竣工し、操業を開始いたしました。今後は、新工場の本格稼働を推し進め、ロボットエンジニアリングビジネスの確立に向けた業務展開を積極的に進めてまいります。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。（各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。）

(ドキュメンテーション事業)

ドキュメンテーション事業におきましては、多言語取扱説明書、組込み型マニュアルといった当社独自の強み・新技術を活かした新規顧客の開拓、タブレット端末のビューワ開発に注力したほか、グループ各社との連携強化による総合力を活用した規模の拡大とブランド力の向上、システム化を進めることでの利益率向上と大型案件の獲得に取り組んできた結果、売上高は928百万円（前年同期比23.0%増）、営業利益は225百万円（前年同期比96.9%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業におきましては、独自のロボット・FAシステムを軸とした株式会社バイナスの高収益化、既存顧客中心の技術者派遣による着実な収益確保と利益率向上、グループ各社との人材交流による技術系要員の育成とグループシナジーによる新製品開発・拡販に取り組んできた結果、売上高は609百万円（前年同期比71.7%増）、営業利益は160百万円（前年同期比103.0%増）となりました。

(技術システム開発事業)

技術システム開発事業におきましては、事業拡大に向けた体制整備、顧客パートナーとの連携強化、既存事業の付加価値向上による利益率改善と信頼性の向上、コア技術を活かした新ビジネス・オリジナル商品の創生による業務拡大に取り組んできた結果、売上高は821百万円（前年同期比18.4%増）、営業利益は73百万円（前年同期比12.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は5,950百万円であり、前連結会計年度末より306百万円増加しております。内訳としては、流動資産が295百万円増加の3,986百万円、固定資産が11百万円増加の1,963百万円であり、主な要因は、現金及び預金で331百万円、仕掛品で13百万円、その他の流動資産で58百万円（繰延税金資産が56百万円増加）の増加があった一方、受取手形及び売掛金・電子記録債権が94百万円減少したこと等であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末より271百万円増加し、2,082百万円となりました。内訳は流動負債が271百万円増加の2,015百万円、固定負債が0百万円減少の66百万円であり、主な要因は、短期借入金が152百万円、賞与引当金が149百万円増加している一方で、未払金が20百万円減少したこと等であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、3,868百万円であり、前連結会計年度末より35百万円増加しております。その主な要因は、四半期純利益170百万円を計上し、136百万円の配当金の支払いを行ったことで、利益剰余金が34百万円増加していること等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年2月14日の「平成25年12月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	993,290	1,324,738
受取手形及び売掛金	2,085,418	1,924,230
電子記録債権	221,086	287,717
商品及び製品	38,503	25,305
仕掛品	134,202	147,268
原材料及び貯蔵品	14,382	14,087
その他	207,114	265,889
貸倒引当金	△2,700	△2,700
流動資産合計	3,691,297	3,986,537
固定資産		
有形固定資産	1,043,695	1,055,613
無形固定資産		
のれん	491,815	478,916
その他	161,450	164,559
無形固定資産合計	653,266	643,475
投資その他の資産		
その他	267,901	277,301
貸倒引当金	△12,250	△12,400
投資その他の資産合計	255,651	264,901
固定資産合計	1,952,613	1,963,990
資産合計	5,643,910	5,950,528
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	399,026	322,143
短期借入金	596,000	748,002
1年内返済予定の長期借入金	1,285	1,061
未払金	338,969	318,205
未払法人税等	39,544	61,158
賞与引当金	125,338	274,670
受注損失引当金	7,404	8,180
その他	236,632	282,328
流動負債合計	1,744,199	2,015,750
固定負債		
長期借入金	2,730	2,393
長期未払金	40,763	40,522
退職給付引当金	21,039	21,349
資産除去債務	2,454	2,462
固定負債合計	66,988	66,727
負債合計	1,811,187	2,082,478

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,327	940,327
資本剰余金	1,171,768	1,171,768
利益剰余金	1,714,608	1,748,939
自己株式	△25,436	△25,436
株主資本合計	3,801,267	3,835,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,358	8,267
為替換算調整勘定	28,096	24,183
その他の包括利益累計額合計	31,454	32,450
純資産合計	3,832,722	3,868,050
負債純資産合計	5,643,910	5,950,528

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,790,295	2,252,509
売上原価	1,239,703	1,502,788
売上総利益	550,591	749,721
販売費及び一般管理費	414,485	447,915
営業利益	136,106	301,805
営業外収益		
受取利息	88	143
受取配当金	—	798
その他営業外収益	919	591
営業外収益合計	1,008	1,533
営業外費用		
支払利息	559	1,086
支払融資手数料	2,105	2,117
支払手数料	1,199	45
その他営業外費用	612	65
営業外費用合計	4,476	3,314
経常利益	132,637	300,024
特別損失		
固定資産除却損	47	134
従持信託分配引当金繰入額	274,088	—
貸倒引当金繰入額	—	150
特別損失合計	274,135	284
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△141,497	299,740
法人税、住民税及び事業税	124,496	188,136
法人税等調整額	△167,283	△59,135
法人税等合計	△42,786	129,000
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△98,711	170,739
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△98,711	170,739

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△98,711	170,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,274	4,909
為替換算調整勘定	5,210	△3,913
その他の包括利益合計	8,484	996
四半期包括利益	△90,226	171,735
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△90,226	171,735
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ドキュメン テーション 事業	エンジニア リング事業	技術システ ム開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	750,878	355,048	684,368	1,790,295	—	1,790,295
セグメント間の内部売上高又は 振替高	3,729	140	9,545	13,415	(13,415)	—
計	754,607	355,188	693,914	1,803,710	(13,415)	1,790,295
セグメント利益	114,580	78,961	65,320	258,862	(122,755)	136,106

(注) 1. セグメント利益調整額△122,755千円には、セグメント間取引消去431千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△123,187千円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ドキュメン テーション 事業	エンジニア リング事業	技術システ ム開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	928,108	609,422	714,978	2,252,509	—	2,252,509
セグメント間の内部売上高又は 振替高	32	344	106,468	106,844	(106,844)	—
計	928,140	609,766	821,446	2,359,353	(106,844)	2,252,509
セグメント利益	225,662	160,329	73,679	459,671	(157,866)	301,805

(注) 1. セグメント利益調整額△157,866千円には、セグメント間取引消去1,130千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△158,996千円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。